

異文化間コミュニケーションに関する発言
— 国際家族メンバーとの面談より

岡崎ラフ 和子

情報科学部情報メディア学科
(2015年9月30日受理)

On Cross-Cultural Communication:
The Views and Personal Experiences of Members of Intercultural Families
by
Kazuko OKAZAKI-LUFF
Department of Information Media Studies
Faculty of Information Science and Technology
(Manuscript received September 30, 2015)

Abstract

This note attempts to identify common factors which influence cross-cultural communication between individuals belonging to international and intercultural families. The research on which it is based consists of interview sessions with 20 adult members of such families. They talked freely, and mostly in an unstructured way, about the benefits and difficulties of living in a family where two or more cultures and languages are present. Of the large number of particular topics covered by the interviewees, this note focuses solely on the theme of communication, and presents a first stage analysis of the relevant comments provided by five female and three male interviewees.

キーワード：異文化間コミュニケーション，面談，国際家族

Key words: cross-cultural communication, interview, international/intercultural family

1. 研究の方法

筆者は、2009年より面談による調査を年1～2回実施してきた。国際結婚によってできた国際家族内で、(1)文化の差に起因すると考えられる適応に関するマイナス(問題点や困難だった体験)について、(2)2つの文化が混合することをもたらすプラスについて、(3)バイリンガル・バイカルチャルになることについて、を3つの大きなテーマとして、基本的に個別に対面して話を聞く方法を採用した。個別でなかったのは、夫婦同時が1例、友人3人同時が2例であった。

面談の進め方としては、いくつかの質問は前もって用意するが面談の展開は発言者の自由という形式を採用した。この形式は、アンケートや質問調査のように1問1答形式でないため、発言内容の分析には時間と手間がかかるが、発言者が表現したいことがより自由に表出されるという利点がある。この方法を、本稿では、調査者が質問を誘導する形の「面接」と区別するために、「面談」と表記した。面談の総時間数は50時間を超え、面談対象者は20名を超えた。そのうち5名については、複数年にわたって面談を実施した。

2. 本稿の目的

この研究ノートは、上記テーマ(1)の文化の差によるマイナスとして表出した要因のうち、コミュニケーションについて言及している部分を、8名の被面談者の発言から集めたものである。コミュニケーションについての発言を選択した理由は、円滑なコミュニケーションと価値観の相似が国際家族の継続に重要な2つの鍵であると、すでに多くの被面談者が指摘していたからである。この研究ノートの目的は、ここでの一次分析から段階を経て、共通のサブテーマや根幹をつなぐ重要な要因を見出すことにある。

「コミュニケーションについての発言」を、本稿では以下の基準で抽出した。

1. コミュニケーションの語が含まれている発言
2. コミュニケーションの語はないが、意思を伝え合うことに関する発言
3. 自分が直接関与するか、自分や家族および親戚が関与するコミュニケーションについての発言

4. コミュニケーション一般についての発言

5. 上のすべてにおいて、非言語によるコミュニケーションに関する発言。

本稿での記述は、可能な限り発言されたとおりにしている。発言の理解に必要と考えられる場合は、調査者の質問を()で、また発言の状況や背景の説明を()で、挿入した。中略部分は・・・で示した。

ここに引用した発言者の属性は、以下の通りである。発言者を便宜上AからHとし、性別は男性m女性fで表記、言語は日本語J、ポーランド語P、中国語C、ロシア語R、英語Eで表記している。

性別	出身国	年齢	(元)配偶者	言語	子	
A	f	ポーランド	40s	日本・既婚	J/P	2
B	f	中国	50s	日本・既婚	J	0
C	f	日本	40/50s	中国・離婚	C/J	1
D	m	中国	50s	日本・離婚	C/J	1
E	f	ロシア	30s	日本・既婚	J/R	2
F	f	ポーランド	30s	日本・既婚	J/E/P	3
G	m	イギリス	40s	日本・離婚	J/E	1
H	m	カナダ	40/50s	日本・離婚	E	1

3. 発言

以下、実際の発言の記述である。発言のまとめに毎に整理番号をつけた。今後の分析のため、それぞれについて、主要と考えられる点を[]に示した。

3.1 Aさん ポーランド出身・夫日本人・夫と日本語・子2人と主にポーランド語(2人目妊娠中の発言を含む)

A-1 〈コミュニケーションは大事だということは、私が言わなかったとしても、そう思いますか?〉そうです、まったくそうです。私はいつもコミュニケーションが一番大事だと言ってます。今本を書いていますね。戦後収容所で過ごした元兵士のインタビューしていますね。厳しい生活の中で、何が一番つらかったかと聞くと、お互い話ができないことが、彼にとって一番つらかったと言いますね。それは、私も思ったのは、やっぱり人間はそれほどコミュニケーションを必要としていますね。確かに、日本人の方は、特

に男はあまり話さない、コミュニケーション取らない。今起こっている、日本で起こっている、いろんな自殺、それとも殺人事件の一番の原因はコミュニケーション不足だと思いますね。[コミュニケーションの重要性、一般の場合]

A-2 それで、どんな結婚の中でも、このコミュニケーションがもう不可欠だと思いますね。どんな付き合いでも、やっぱり人間はほかの人間を必要としています。私の結婚生活の中で、もうコミュニケーションが一番私に足りないと思いますね。だからコミュニケーションは夫ではなくて、外、外のコミュニケーションに頼らなければならないというのは、多分、もう私の結婚生活の特徴だと思いますね。[コミュニケーションの重要性、自分にとって]

A-3 やっぱり毎日自分が思っていることとか、したいこと、考えてることというのは、やっぱり誰でもそれについて話す必要はあると思いますね。それは健全だと思いますね。[コミュニケーションの重要性、自分にとって]

A-4 (夫は)何も言わない。本当に何があるか、もう全く説明していない。それは基本的に、結婚してから基本的にそうです。いつも私はコミュニケーションは足りないと思っていました。でもね、男は一般的にあんまりコミュニケーションしないと思いますね。それ、日本人だけではなくて。[男性はコミュニケーションが少ない]

A-5 女性の方がコミュニケーションが必要だと思いますね。それで、私が考えるのは、女性たちが(コミュニケーションすることで)ストレスを発散してると思います。[女性はコミュニケーションをストレス発散に使う]

A-6 一般的に言いますとね、男性と女性は違うと思います。コミュニケーションの仕方とかね。あと、男性はあんまり細かいものには集中しないと思いますね。なんか1回言えばそれで通じる。それは有効ですね。女性は常になんか確認が必要ですね。それでいいのかとか、なんかそういうところがあると思いますね、一般的に。[男性は端的なコミュニケーション、女性は確認のためのコミュニケーション]

A-7 新聞に書いてることとか読みますと、やっぱり高齢離婚が多いと。それで、高齢離婚の一番の原因って、なんもコミュニケーションがないですよ。元日本兵が言ったように、コ

ミュネーションのなさというのは、いくら人間がお腹空いても、いくらつらくても、やっぱりコミュニケーションのなさっていうのは一番つらいものであると思いますね。[コミュニケーションの重要性、一般の場合]

A-8 常にこのコミュニケーションが足りないというストレスがすごくあると思いますね。夫はそれを全く分らない。彼は、真反対の生活ですからね。彼は仕事に行って、仲間と話して。問題もあると思います。いろいろ人間関係はつらいというのはあると思いますが、彼は仕事に行くと人のコミュニケーションがありますね。それはいいコミュニケーションもあって、悪いコミュニケーションもあると思います。でも、彼はうちに帰ると、1回私に言ったんだけど、「もうあんまり誰にも話したくない」もう1日疲れてね。[夫と自分が相反する形でコミュニケーションに関するストレスを感じている]

A-9 日本の社会は、仕事の大優先、家族無視、そういうことを基本的に許してるからですね。(問題があっても)コミュニケーション不足で、その解決はできない。自分の夫とコミュニケーションがないから、私本当に頼りなる人のネットワークが必要ですね。[日本社会の仕事優先が夫のコミュニケーション不足の原因、自分のとっている対策は外のネットワークの活用]

A-10 (ある問題を、話し合うことで解決できないから)、本当のことを言わない(手段を使わざるを得なかった)。ごまかす。でもすごく違和感を感じたんです。それさびしさですね、むなしさ。やりたくはないけど、ほかはない。コミュニケーションできない。それをすごく感じたんですね。ちょっとむなしいというか、無力。[コミュニケーションが十分でないために、違和感がある方法もとらざるを得ない事態が生じる、むなしい、無力]

A-11 子供が泣いているとき、「お父さんにも言えば？」っていうと、「いいです」とか言って、別に仲が悪いわけじゃないんだけど、お父さんはもう「元気出して、気にしないで」というから。それは解決にならないんですよ。いくら人間が落ち込んでも、確かに気にしないでとか言われても、それはまったくない。何か言わなくちゃいけないからそういうふうに言うんだけど。[言葉は発しても問題解決にならないコミュニケ

ーションの例]

A-12 息子がポーランドの学校に行って自信をつけたというのは、友達ができたから。自信出すため。やっぱりコミュニケーションですよ。また、コミュニケーション。私は言ったんですね。「あなたはもし仲のいい友達がいて、その人を家に誘いたかったら、もういつでも誘ってください。」それで誘い始めたんですね、お友達を。すごいんですよ。最初は一人来て、あと2人来て、最後になんか4人ぐらい同時に。・・・それで公園でも遊べることになったし、やっぱりこういうふうだね、人とのコミュニケーション、もう本当に一番大事だと思います。[コミュニケーションをとり、行動することで自信がつく、息子の場合]

A-13 例えば、私にはすごく不思議に思ったのは、例えばね、彼は1時ころ帰るでしょ、子供が40度の熱を出して泣いてるんですね。彼はまっすぐ自分の部屋に行っちゃうんですよ。それはもう本当に寂しく感じるんですよ。でも、完全に一人、もう捨てられてるという感じですね。彼は多分なんかそれ無意識的に疲れてるとか。でも、なんかやっぱり、子育てというのは、もう本当に誰かが必要ですね。なんか、誰かにいてほしい。何も言わなくても、そばにいてほしい。私にはそれはない。それを乗り越えるためにすごくつらい体験しました。それは、本当にいくら言葉にしても彼はわからない。[ストレス下では、そばにいるという非言語コミュニケーションでさえも有効、自分の場合はなかった]

A-14 最初は期待していたからですね。それで何とかって、自分のほうから何でもしてました。私は自分を変えなくちゃいけない。でも、こういう、なんかコミュニケーションというのは自分だけじゃなくて、確かにもう、two to tango みたいな。[コミュニケーションは2人で作り上げるもの、1人の努力ではなせないことがある]

A-15 主人はポーランド語分からない。(だから)聞いてない。食事してる時、(私は)子供とポーランド語で話す。でも、もし日本語話しても何も言わないんですよ。だから、私は、ポーランド語で話す。それに(主人は)違和感を感じてない。たまに聞いてくる。「どうということ?」それで私たちも簡単に言うんだけど。本当

に完全に二重生活ですね。[コミュニケーションにおける共通言語の重要性、それがいない場合二言語二重生活になる]

A-16 本当にコミュニケーションが一番大事で、このやっぱり、家族かどうかということも、なんか家族というのはもう、生物的なつながりだけではなくて、やっぱり精神的なつながり(家族同然の人たちと30年ぶりに再会するためにエジプトに行く理由)と、大事だと思いますね。私の夫は全くそれがわからない。(エジプトに子供を連れて行くことについて)「いや、絶対駄目、行かないほうがいいですから、そこは危ない」。もし、(海外に行くのにあわせて生活費をいつもより早く)くれることはできないかと聞いたら、怒って、私がお金しかほしくないと言って。なんかそれに理由があると聞いたら、怒って、もうドアを閉めて、なんか出て行った。くれることができなかつたら説明すればいいんじゃないですか。それで私は違うふうに、なんかアレンジメントするでしょ。[自分の意図が受け入れられないと立ち去る非言語コミュニケーション]

A-17 学校の最後の懇談会とか、皆ね。「ああ、すごく楽しかった、子供にとって良かった」とか言って、その私の番の前に一人泣きながら言ったお母さんがいても。私はほかのお母さんたちみたいに、楽しかった、よかったとは言えないです。それで、自分が問題があった、本当に苦労してたということも、みんなの前で別に言っても、変な外人だと思われるんですね。だって、何も言わないというのも、別に誰も理解していないから、まず、こういう場がおかしいと思いますね。本当は言えない。このお母さんも、違うお母さんも、なんか本当のことを言いたいんですね。でも、言えないの。だから、私も二度とそういうところに行かない。あの時本当に私は、自分で何も問題なかった、楽しかったと言えない。じゃ、何のために立って何か言う?[本当のことを言えない会合は意味がない]

A-18 (子供が学校で問題にあったとき)内気でシャイで、またママがなんか外国人で、なんかすごく弱く感じてるんですね。自分のこと。それを改善するために何をすればいいのか。もちろん夫と話せない。また、彼は、「うん、大丈夫、大丈夫、みんなそうです」って。いや、

皆そう、ということじゃないんですよ。人間一人一人違うんですよ。敏感さとか、なんか反応の仕方とか。[事態改善にならないコミュニケーションの例]

A-19 (息子には) このすべての体験を合わせて消化する時間、結構かかるんですよね。ポーランドの学校はどうだったのかと言い始めるのは、ポーランドから帰って3か月後くらいに言い始めるんですよね。最初は帰って、日本の学校に行かなくちゃいけないから、この切り替えなんかもう、いろいろ。[コミュニケーション、時には発話までに時間がかかる、息子の場合]

A-20 もう本当に、ある程度まで信用がなければ、もうコミュニケーションがなければ、もう別れるしかないと思いますね。もう本当に、本当に。それ以上私は自分を犠牲にすることはできません。[コミュニケーションは結婚継続に必要]

A-21 私はそういうところを評価していますね。あと、喧嘩すると、このコミュニケーション不足で、たまになんか小さなこと言っても、もうそれはね、「ああー」とかこういうテンションになっちゃう。それを、そういうことが結構あります。で、彼はそれを乗り越えられるんですよ。結構早く。[コミュニケーションに執着しない=問題に執着しないで乗り越えることが出来る利点になる]

A-22 それは喧嘩しても良いですよ。論争してもいいと思います。お互いに議論。だから私はね、子供静かにしなくちゃいけない、大人も静かであるべきとか、私はそれは正しくないと思います。子供と大人、人間はもともと静かにいられないですね。なんか問題がありましたら避けたいでしょ。[問題を避けるため喧嘩も論争もいい、子供も大人も、静かである必要はない]

A-23 妊娠中、土曜日にどっか食べに行きましょう。私食べに行くんだけど、途中で気分悪くなっちゃうんですよ。「もう食べて私帰るから」で、「何でそういう風に早く帰るのか?」だから妊娠してるんですよ。そのとき普通じゃないんですよ。横になりたい、だから一人で帰ると。寂しいんだけど、でも理解されないとちょっとひどいですよ。もう帰ると口完全に聞かなくなって。ホスタイル的(敵対的)立場だったんですよ。

A-24 夫は、日曜日、いろいろ掃除もしてるんですけど、私の掃除が足りないと思ってて、私はそうだったら、どうぞ自分でしてください。でも、黙ってしてる。私にとって、黙って掃除をするというのは、あんまり私にとって大事じゃないんです。私はコミュニケーションは大事です。私なんか、亡くなるときに、ああ、うちは綺麗だったということで振り返って満足しないと思いますね。私、誰と話した、どういうことしたということ、振り返ると思います。[コミュニケーションと黙ってする掃除、夫婦間における優先順位の違い]

3.2 Bさん 中国出身・夫日本人・夫と日本語・子なし

B-1 中国人同士だったら、多分男性からは、家庭の中ではハグしたりキスしたり、ニックネームで呼んだりします。これ何?とか言いながらハグしたり。こっち(日本)は、職場みたい。淡泊です。[日本と中国の愛情表現方法の違い]

B-2 私から見ると日本人の男性は、1人の世界が一番幸せみたい。じゃあ1人で幸せじゃないですか、(と夫に聞くと)、「いや、そうじゃない、恥ずかしいですよ。」と言う。[愛情の表現が恥ずかしい夫]

B-3 夫婦はコミュニケーションはもちろん言葉ですけど、例えば花を買うとか、それはしょっちゅうやっています。お土産は買ってくる。それは付き合ったときは、全然なかったけど、今は毎回。昔はお菓子を買う習慣もなく、私は、何もないじゃないですか、と言ったら、そういうことは昔より良くなった。[愛情の表現、言葉でなく行為で]

B-4 テレビを見ながら食事をする、これもショックでしたね。何度も話し合ったけど、テレビがなければ何をすればいいかわからない。彼の言い分は、お母さんのおなかにいるときからテレビを見ているから(笑い)。子供ならいいけど、大人になってからはね。[食事時にコミュニケーションよりテレビがショック]

B-5 もっと植物を買ったほうがいいとか、私だったら言葉で表現する。相手は、買い物のときに、そういうところに行く。地震が来るといってそういうところ(耐震用品の売り場)に行く。[コミュニケーション、言葉でなく行為で]

B-6 お兄さんの家の耐震の心配をすると、いやいや自分(夫)から言うと具合悪い、〇さん(妻)だから言いやすいから言って、という。

B-7 大学の先生、具合がよくない。私、経験談とか、中国の例を訳して送ったんですね。夫はやりすぎと言ひ、私も奥さんもいらっしゃるのに、やりすぎたかもと気が付いた。中国ではやりすぎと思われない。もう一人の日本人の友人も、こんな薬ありますよと言うと、自分が何もしていないみたいだと言われている気がすると言う。[相手のためを思っしてする積極的なコミュニケーションはやり過ぎととられる日本、そうでない中国]

B-8 (日本は)家庭の中でも説明がないけれど、それも1つの文化ですから、長く続てきた、それなりにいいことがあるのではないでしようか。[不満に思ふところもあるが、文化として継続して来たなりの良さがある、バランスを取った見方]

3.3 Cさん 夫中国出身・のち離婚・夫と主に中国語・子とは日本語

C-1 元夫に文革の影響があるとしたらって言ったのは、ロールモデルがなかったってこと。コミュニケーションの取り方、家の中での息子とのコミュニケーションの取り方を知らない。物理的に両親が離れていたから、家が、両親がいて、子供がいて、一緒に食事をして、っていうことはなかったから。それぞれの役割っていうのかな、がどんなものか分かんない。[モデルや体験の欠如がコミュニケーション活動に及ぼす影響]

C-2 最初から、性生活に関しては、衝突とかうまくいかなかったけども。それを話せる、お互いに話すようになってから、子供ができるあたりかな、そうだね。子供ができて、だから自分の身体についてもう少し知るようになって、口にして話すこともできるようになった時に、お互いに少しずつ話し始めて、どうも問題があるらしいと。[話し合いが問題認識に]

C-3 険悪なムードが、随分緩和されてくるようになったのは、お互いがオープンに話すようになって、身体の構造とかそういうのも含めて、話し出してからだよね。[話し合いでムード改善]

C-4 最初は本当に、やっぱりそんなことを口にすることすら嫌だから、私の方がもう言い及んじやってるんだけども、でも、少しずつ、少しずつ話して。・・・今回もこの二人の衝突はどこだって、二人で何回も何回も話したけども。その都度、じゃあ元はなんなのかっていうのを振り返って。・・・それから、その次の段階は、私の仕事と家庭のバランスっていうのかな、それをどう処理するかがうまくいってないと。だから、彼はそちらを緊張しないように、リラックスするように、いろいろやった方がいいとかね。そこで、私は通勤の問題を出して、時間的に、物理的に、やっぱり切羽詰らざるを得なくなるから、もうちょっと余裕があるようにと。

[問題解決のための話し合いが、意見の食い違いで平行線のままに終わる]

C-5 修復可能かどうか。もし彼が別居という形を許してくれて、もう一回2人で距離を置いて、そして、何とか修復できないかってことに同意してくれれば、それならば、試みるあれもあるかもしれないと。でも、彼ははなからそれを認めなかったのて。[話し合いと、受け入れることや認めることとは別]

C-6 分析とか説明とかってのはたくさんしてる。最初、私はそれに耐えられなかったんだけども、今はそうしないと気持ち悪いから。その黙ってれば分かるじゃないかとかね、察するべきじゃないかとかね。だから、こちらが黙ったのは当然じゃないか、それを察しないあなたが悪いっていうふうに、「なんで察しないの?」って言ってる部分を全く聞かないってことが分かったし、きちんと説明して、説明するだけじゃなくて、だめ押ししなきゃいけない。[察することを期待できないという発見、説明とだめ押しが必要]

C-7 彼が私が入りにいると、なんかべったりなわけ。いい加減にこちらが何しててもいいからほっといてよ、って言いたくなるようにね。[非言語コミュニケーションの不一致]

C-8 日本人のそのぼかしをずるいと。どうでも取れるようにと、はっきり決めないっていうね。だから、あの人の、彼にとってみれば、結婚のときに私がどこにでも行くと、一緒に帰るって言ったことは言った。これは契約だと。結婚が君が言う契約ならば、これは契約じゃな

いかと。そしたら、私の方は、じゃ、状況が変えたというふうに言うわけ。でも、彼にとってみれば、その言ったこと、もし、これ文字に換えていたならば、もうそれが言ったの証拠になるわけよね。だから、中国のインテリは絶対文字にして書かないわけよ。[契約、文字化された証拠、日中の理解の違い]

C-9 お小遣いのことについても、家計がこうなっていて、だから、お小遣いはこうなんだ、ということはしたくない。だから、こういうことはあの子(息子)には言わないで、出すものは出すと。全部今の家計の状況はこうで、こうなってるから、あなたにはこれぐらいしかあげられないんだと言うべきだって。それで、「じゃ君のうちではどうしてきたのか？」って、うちは家計簿をつけていて、父親の給料渡して母親が全部細分化して、封筒に入れて、それをずっと見てたして言う。そしたら、「あ、フーン」ってというような顔してたからね。・・・意外だったみたい。知らなかったみたいね。だからそれはどうしていいのかわからなかったのじゃないかな。でも、その腹を割って話すっていうことに関しては、やっぱ、これはもしかしたら中国的な父親の権威を保つ、黙って耐えるなり、黙って内実は隠して、っていうのはあるかもしれない。[方法を知らないからか、父親の権威の保持からか。子とのコミュニケーションで腹を割って話すことに欠ける]

C-10 その腹を割って話すということをしなないというのが、文革のときの自分を守んなきゃいけないっていうところから来てるのか、それとももっと文化的に家父長であるというところからきているのかは分かんない。[自分を守らなければならない体験からか、家父長がこうあるべきという教えからか?]

C-11 (子供には)悲惨な体験は言わない。[選択された安全なコミュニケーションのみ]

C-12 信頼できなくなるってのは、少しずつね。だから、何時に帰るといっているので、息子と2人で待っていて、それが裏切られたっていうのが何回もあるわけでしょ。だから、それは小さなことなんだけども、つもり重なっていくと、大きなことになるから、「それはしないでほしい」って、「わかった」でも、同じことっていうのががっかりしていくのね。案外、ひび割れにな

ってってるのね。[小さな発言と行動の不一致、不信感の源]

C-13 向こうはリード型、私が従う感じだから、コミュニケーションしているつもりが、かなり私が一方的に聞いている。[コミュニケーションパターン、主に一方が聞く]

C-14 相手からの答えを待っていて、会話はしたいんだけど、私から引き出すのがおそらく大変だったので、だんだん、だんだん自分のことを言って、それでおしまい、事足りりとしたかな。[コミュニケーションパターン、主に一方が話す]

C-15 どうなんだってことは、だからどうしてなんだってのは、しょっちゅう聞かれた。だけど、言うとは議論になるから(言わなかった)。[コミュニケーションパターン、議論を避け言わない]

C-16 だんだん、だんだん、疲れてくると、それがめんどくさくなって、黙ってしまっ、いいですよという形。中国人にとっては、答えて議論することが当たり前だから、違った場合は、おそらく文化の違いって言ったらそこじゃないかな。[コミュニケーションパターン、疲れて黙る]

C-17 もし、そのところを私をもっと議論することに慣れていて、もっと意見をぶつからせていたならば、おそらくもっと意思疎通がしやすいルートができたんじゃないかと。それがちゃんとできる前に、お互いに忙しくなって疲れてきちゃって、という形で。[コミュニケーションパターン形成、疲れて進まず]

C-18 それでも、普通の日本人の家庭よりはずっと話したと思う。私もずっとしゃべるようになったし、だから今、20年経ってみたら、私は普通の日本人よりずっと、直接もう、日本人じゃないぐらいははっきり、はっきりというか直接ダイレクトに言う形になってるから、おそらく影響は受けたんだと思う。[コミュニケーションパターン、影響受け変化]

C-19 言わないと向こうはかえって怒る。向こうにとっては、ものすごい侮辱、あるいは無視、あるいは敵対的な関係をわざわざ作ろうとしているのか?っていうふうに取りられた、言わないことがね。沈黙の美は通じなくて、逆効果になっちゃうので、それはなぜなのかというの

を言うようにしたと思う。[沈黙は受け入れられず発言する方へ変化]

C-20 私が、不満をやっぱり行為、行動で表すから、そうすると、やっぱり何が不満なのかっていうのは、ちゃんと聞きたいわけね。こちらは説明しても、いつもがんと拒否される。結局は、どうせあなたの言う通りでしょうっていうことになるから黙っちゃうっていう関係だけだ。[不満の表出は行動で、説明しても受け入れられず黙る]

C-21 中国人の場合は、もう少し口に出して、もう以心伝心じゃなくて、言葉でちゃんと説明しないと分からない。説明しあって確認しあうことが双方にとってとてもいいことだっていうふうに、そういう文化なんだと思うのね。そういう意味でのコミュニケーションですね。[説明と確認対以心伝心]

C-22 意見があるんだって言うってごらん。待ってるから、聞いているから、っていう形で言う。でも、もうこちらはやっぱりそのパターンが、向こうに言ってもらって誘導してもらってこう言って、っていうパターンに慣れてきてしまってるから。だから、会話が通じなくなる、コミュニケーションができなくなる際の私の落ち度だったと思うんだけど。パワー関係かな。[コミュニケーションとパワー関係]

C-23 うちの、父親が一応、曲がりなりにもうちらしくて、ちゃんと三度の食事はできる限り一緒にコミュニケーションをとって、っていうのをあれしたから、食事の、少なくとも夕食を一緒にとるというのはとても大切だったのね。それが一つの柱で回っていったっていうところがあるから、それをだから彼がしないっていうところで、やっぱり私が思い描いている家庭像とかなり違うものになってしまうの。[家族でのコミュニケーション像、不一致]

C-24 (父親の非言語的コミュニケーションについて) 子供が本当に必要としてるときに、例えば、夜いつでもおなかが痛いときは必ず起こしていいからと言って、痛くて苦しんでるときはちゃんと手を当ててくれたりとか、そういう形のスキンシップとか、(それが夫にはなかった) [非言語コミュニケーション、ずれ]

C-25 生活の中の優先順位が違う。それは大きくずれていたと思う。そのずれはどんどん、

どんどん広がって行って、それが2人のコミュニケーションを、お互いというか、私の方に、もうやってもしようがないなっていう気持ちの方に強くさせる1つの大きな要因になったと思うのね。[生活の中の優先順位、ずれ]

3.4 Dさん 中国出身・妻日本人・のち離婚・妻とは主に中国語・子1人とは日本語

D-1 言葉が独り歩きしちゃって、イメージ先行してね。その裏の本当の意味と、表のあれがずれてしまうと、結構おかしくなる。・・・この人間のコミュニケーションと言うか、話し合いと言うのは、なぜ難しいかと言うと、常にいわゆる暗黙知の部分と、表の機構化されてる部分の冰山みたいな関係あるんでしょね。上の冰山だけ見て、同じバックグラウンド持ってる人は、あ、これは氷山の一角って言って、下は実はこれだけあるって言うことを分かるんだけども。ときどき、上のシグナルと下のあれがずれたり、あるいは、その前、氷山の一角だけ見ても、下に何かあるかわかんないってね、そういう部分もあるから、だからコミュニケーションというのは非常に難しいんです。[コミュニケーションの難しさ、一般]

D-2 (子に体験を話すこと) これだけ一緒に生活してるのに、なかなかそういう、お互いに気楽にしゃべるような、伝えるような場面というのはなかなかないっていうのは、非常に不思議なの。だから、いわゆるジェネレーションの間のギャップと言うのは、どっちが情報を表に出さないと言うことじゃなくて、なかなか、情報を受け渡すようなそういう場面というのがないため。巡ってこないというのは、こちらから一方的にしゃべろうとすると、向こうが逆に受け付けられないような感じになるから、これじゃ苦しくなるから、しゃべらないほうがいいという感じで。[コミュニケーション、子との場合]

D-3 (自分の父親と話すことについて)、こちらから、こういうことを教えてくれとか、しゃべってくれとか、そういう風に言えば、おそらく喜んでしゃべってくれるんですけども、なかなか、私からこういうことをしゃべってくれと言うことはなかったんです。[コミュニケーション、父との場合]

D-4 (自分の父親からも) ここを覚えてくれと

かなんかになると説教風になっちゃうから、受け付けられないような雰囲気になりそうで親も多分言いつらいし、もしも親のことに關して、間接的に、たとえば、他の親と、親の同僚とか、同年代の人と雑談するとき、私が隣に行き行って聞いて、ああこういうこともあるのかな、と。そういう方がむしろ自然。むしろ、親の人生をのぞき見る、そういうあれになる。直接こう伝えるっていうのは意外と難しい。母親の方がもっとしやべれる。気楽に。子供も聞く耳を持つしね。[間接的・直接的コミュニケーション]

D-5 人間のこの知識の伝授と言うか、伝えるというのは、言葉にして伝えるというのは、一番本当は理想的ね。一番効率がいいはずなんだけど、意外と現場では使っていない。現場ではむしろ、見て盗む。(医学、伝統芸術などについて中国でも)[言葉による伝授と言葉なし(見て盗む)伝授、特定の分野で]

D-6 (子に対して伝えること)〈職業とかそういう面ではなかなか難しいけれど、人生を生きるにあたって、もうこれだけは絶対するなと、とか、こういうことは必ず尊重しろよ、とか、そういう教えたことってあるのでは?〉いやあ、これ難しい。めちゃくちゃ難しい。そう、身近な例と言うと、お客さん来なければ、ごみをなかなか片付けてくれない。「ごみ捨てろ」「やるよ、自分でやるよ」って言いながら、結局やらないしね。こちらが怒ると、「また怒鳴る」とかなんかになるからね。そんな、ちいちゃいことさえ難しいんですよ。[子とのコミュニケーション、難しい]

3.5 Eさん ロシア出身・夫日本人・夫と日本語・子2人と日本語とロシア語

E-1 日本の主人、neglect 虐待、夜仕事の人と食事して遅く帰ってくる、それ普通、おかしいと思わないのは、ネグレクト。電話しないで夜遅く帰ってくる、私が臨月でも妊娠中でも、子供が病気でも。[コミュニケーションなし、虐待に等しい]

E-2 夫は帰って来て食事して、明日早いからもう寝る、ドアパタリ閉める。[コミュニケーション不足]

E-3 ロシア人だったら、意見言うけど、日本では合わせますし、いい話だけします。いい

形でしか会話しない。それはつらい。そうですね、そうですね、につきる。ロシア人は、ずっとけんかしている。私はこう思う、物言う、それでお茶を飲む。これが普通。[いい話だけの日本、ロシアではお茶の場で率直に言い合う]

E-4 1つの分からない文化は、「お世話になっております」。例えば、親戚の女の子が来た、しばらくのち、そのお父さんに会った。「お世話になりました」。私彼女に何してあげた?わからない。[お世話になりました、分からない表現]

E-5 逆に私がロシアに帰って、お姉さんのところに泊まる。気持ちとしては、「お邪魔します」。「ありがとう」と言うと、いやなのに無理してやってくれたととられます。お酒を飲みながら、ぼつんと、「ありがとう」と言う。短く、顔を見て。[有難う、言い方もとらえ方も違う]

E-6 敬語で逆に距離が大きくなる。ロシア語でも、あなたとあなた様、もう親しくなったのに、あなた様を使い続けると距離ができる。[敬語と心理的距離]

E-7 すみません、すみません、繰り返す日本人。言葉を勉強している私には、すみませんは私が悪いことをした時だけ。この頃、ありがとうと言う。代わりに。[すみません、使うときの違う]

E-8 今考えてみたら、彼は私に質問しませんね。友人が病気になったというと、「何歳?大学卒業して何年?」どこに行ったと言うと、「何線に乗りました?何回乗り換えた?」[コミュニケーションで伝える、尋ねる内容のずれ]

E-9 眼鏡屋さんだから、私の顔見るのは、メガネが曲がってる時だけ。パン作ったら、「パン光ってるね、何塗ったの?」「卵塗りました」「黄?白?両方?」[同上]

E-10 たまに顔見るとき、「ちょっとメガネ貸して」、(直して)差し出しながら、「うん」(と渡す)。コンタクトレンズにしたら、もうこれなくなる。[少ないコミュニケーションのチャンス]

E-11 私は言葉をする人だから、一度でいいから、なんか思い出になる会話がほしい。昔、私が話しても、ずっと見てる。(それは)トイレ行きたいのを我慢していただけ、(ということが)何回かありました。[会話がほしい]

E-12 旦那さん、話してくれない。いったいいくら給料もらっているのかわからない。ボーナスもらっても一言も言わない。[会話がほしい、大事なことは伝えてほしい]

3.6 F さん ポーランド出身・夫日本人・夫と日本語・子2人のち3人・子とポーランド語と日本語

F-1 Polish talk a lot, and Japanese don't. My husband doesn't talk much and he says I talk much, he wants me to read his mind. "Do you want ocha?" He says "Un. " What is it, you want or not? [コミュニケーションパターンの違い]

F-2 He says I speak too openly, too direct. Still for him I'm more indirect. [同上]

F-3 I don't like to plan, he asks what time do you get up? He wants to make sure everything is perfectly done. He doesn't inform me, but it seems I need to inform him. [伝える義務は一方的]

F-4 (He loves me but) he doesn't say he loves me. [愛情表現がない]

F-5 Polish talk to relax and communicate. Japanese talk when there is a problem. [コミュニケーションはリラックスするため対問題解決のため]

3.7 G さん イギリス出身・元妻日本人・元妻と日本語と英語・子1人と英語

G-1 (Were you aware of ex-wife's expectations?) Yes. She made it very clear. I was perfectly aware of, but we never discussed. [話し合いの欠如]

G-2 (How did you respond to her when she told you that she wasn't happy?) I passively listened. But certainly not wanted to discuss. I never discussed with her. It is not my nature. I was never good at discussing anything with anybody, including my own family. [話し合いの拒否]

G-3 I didn't respond. I usually bottled up. I was never angry. I did my own things, whether it's a walk or cycling, just discharge that way. [話し合わないことによって鬱積し

たエネルギーの解消法]

G-4 I didn't respond. She was better, she tried to let her feelings out. And better bringing up things on the table to be discussed. [話し合いの拒否]

G-5 I was too afraid. It was an unfamiliar territory. I could have made things much easier for her, for me too, had I been more willing to talk about. [話し合い拒否の理由]

G-6 She became more and more frequent commenting I would like you to change. I got to the point that maybe I need to change, then I thought just a minute she is always asking me to change, that's fair enough, but then I never asked her to change. I never did. There is a bit of imbalance. [元妻からの要求を一方的にとらえる自分]

G-7 I was a coward. I didn't want the consequence of having an argument. I don't think it is anything cultural. It was me, my personality, lack of familiarity (with discussing). [議論を避ける理由]

G-8 My ex-wife said repeatedly, even to the (divorce) mediator, she wants me to be more like a Japanese salary man. I have no intention of being a salary man. Our values were very very different. I wonder if she was aware before our daughter was born, or even when we got married. I never asked. [話し合いの欠如, 価値観の相違に気づいていたかを問うことさえなし]

G-9 I never apologized to her. Honestly. [謝ったことなし]

G-10 (about talking things in relation to other people rather than oneself) It's not because I am reluctant to talk about myself or my own things. It's much fuzzier and complicated than talking about other people. [自分のことを話さない理由]

G-11 (After the divorce) I haven't been consulted as to which school our daughter goes to. She thinks I don't deserve. [子供の進学といった大切なことでさえ相談されない]

G-12 (looking back when his ex-wife and their new born baby were staying at her

mother's home, *jikka*, rather than their own home) My wife wasn't pleased about my coming. Her mother said 「毎日来なくてもいいですよ」, 「うん, 毎日お邪魔します」. I didn't ask. I didn't argue. I just did it. [したいことは, 尋ねたり言い争ったりせずに, ただ行動に移す]

3.8 3人同席のケース

C (日本人女性) G (イギリス人男性) H (カナダ人男性・元妻日本人・元妻と日本語・子1人と英語) の3人同席で行った面談での発言である。CとGは上記の同記号発言者と同一人物である。

C-1 Chinese more like Western: they are more direct and they enjoy communicating or discussing with others. Once when I talk with my (Chinese) husband in front of my sister, she cannot understand Chinese of course, but for her it was as if we were quarreling, but we were just talking and exchanging opinions. What is most difficult for me is when he said some opinion I feel as if I was offended or I was scolded by him. [普通に話しても言い争っているように聞こえる中国語での会話]

H-1 (on his ex-wife) If I expressed my opinion, it was (taken) like I was arguing. I was just expressing, I wasn't raising my voice, I wasn't screaming, I was expressing but because it was contradicting what I should be saying or what was thought to be right, (she said) I was creating conflict. It was just a normal conversation. So you felt you couldn't express yourself because anytime you expressed yourself, it was like you get the feeling that your partner feels you're arguing with her when you are just trying to communicate. [普通の会話のつもりでも, 意に沿わないと言い争いととられるため発言を控えざるを得ない]

C-2 (on her ex-husband) He wanted to teach me how to discuss with others. He says some opinion and then he expects my answer. When I keep silent, he still tells me you can say this way and this and this, to just say the opinion. In Japan when you have different opinion, you just keep silence. [元夫が教える

議論の仕方対日本の異論は発せず黙る方法]

G-2 I couldn't challenge that or I knew if I tried to challenge it, then I would be seen as being argumentative and confrontational. So then you kind of stopped communicating and then it builds up inside and that starts festering, right? [意見を言う, 反発とみなされる, 黙る, 自分の不満が大きくなるというパターン]

G-3 If you feel you can't give your opinion, then where is freedom or democracy? It becomes totalitarian. [家庭が自由のない独裁の世界となる]

G-4 I felt it was futile to try to discuss things because things didn't go in that way and turned into argument, so what's the point? I might as well just bottle up and say nothing. I felt there is really no logic, and the more you try to analyze it the more difficult. I can't analyze it anymore, it's beyond analyzing. I just don't see any logic any more. [話し合いや論理が意味を持たない夫婦関係]

C-3 (about how to finish discussion/argument) My way is just to keep silence, and finish, don't tell anymore and forget it. But his (Chinese ex-husband) way is to ask why and how and what we should do this, he wants some result. It's better to just cut it and finish it. [話し合いが持てた場合の終わり方, 黙る対結果を求める]

4. 発言が示す点

これらの発言が示唆する点を以下にまとめる。

1. 日本の男性は夫婦間でのコミュニケーションが少ないと感じる/不満に思う非日本人妻 (A, B, E, F) がいる。
2. コミュニケーションが少ない原因としては, 仕事優先を許容する日本社会 (A, E), 子供のときからの習慣 (B), 共通のレベルでコミュニケーションする言語能力に欠ける (A, D) などの原因が考えられている。
3. 日本のコミュニケーションでは言語化される量が少ない。そのため, Yes か No か, その理由の説明, 提案など, 明確に言葉で伝えるより, 行動で示すか, 察してもらおうとすること

が見られる (A, B, C, F) .

4. 問題解決のコミュニケーションと体験の共有やリラックスするためのコミュニケーションがあるが、日本では問題解決が主となることが多い。そのため、体験の共有やともにリラックスするためのコミュニケーションに慣れている非日本人配偶者は、コミュニケーションの不足を不満と感じる (B, E, F, G) .

5. コミュニケーションパターンが異なる場合に話し合っただけより、一方が不本意に従わざるを得ない状況を生む (C, F, G, H) .

6. 話し合いをしない、意見を出さない、黙ってしまう、は相手の提案や言い分を受け入れたことになる (B, C) .

7. 言わなかったがために、相手の提案や言い分を受け入れたことになることが続くと、不満となる (A, C, G, H) .

8. この不満を、仕事や子、友人、趣味などで解消する方法を持つ場合と、持たない場合があり、ストレスに影響する (A, C, G, H) .

9. 伝えたいことがNOのときには黙る、その場を去るなどのコミュニケーションが使用される (A の夫, C, E の夫, G) .

10. 言うべきことの判断が文化によって異なる (A, B, C, E, F) .

11. 「有難う」の言い方に文化差がある (E) .

12. 頻発される日本人の表現に戸惑う、不快感を覚える外国人がいる。例「すみません」、「お世話になりました」 (F) .

じられた。この切り口から、さらなる分析を始めた。

5. むすび

2つまたはそれ以上の文化の影響を感じ、2つまたはそれ以上の言語を聞いたり話したりして毎日生活する「国際家族」のメンバーから、その体験のうちコミュニケーションに関わる発言を集めた。

多くを話し説明や確認を日常とする中国・ポーランド・ロシアと察しと沈黙の日本など、共通のテーマを読み取ることができたが、これらはすでに指摘されていたことの確認という印象である。むしろ、被面談者たちがオープンに語る発言の語り口、家庭内のコミュニケーションのやりとりの内容そのものが、新鮮であった。そして日本人の筆者には見つけられない異文化からの切り口、たとえば、リラックスするためのコミュニケーションと問題解決のコミュニケーション、が新鮮に感